



# 学校だより

8月号

横浜市立桜台小学校

令和2年7月31日発行

## 新しい生活習慣へ

校長 小宮 健

未曾有のコロナ禍の中、緊急事態宣言解除後の6月1日から教育活動が段階的に再開されて2か月。学級を2つに分けた隔日分散登校、午前からの全員登校を経て、7月1日からは給食とともに午後の授業を行う通常の時程となりました。保護者、地域の皆様には、子どもたちの健康・安全を守るための取組にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

再開当初から想定内だったのですが、学校生活の中で教職員から「マスクの着用により、児童の様子を見取る際に顔が半分隠れてしまっている状態が指導・支援の妨げとなってしまう」という声が上がっています。目を合わせ眼差しで伝え合うことを意識しても、お互いの表情が分かりづらく、意思の疎通や対話的な活動が成立しにくい要因になっているということです。子どもたちにとっても、教師や友達の表情を見て相手の気持ちを十分に感じるができないのはつらいと思います。だからと言って、表情が分かるフェイスシールドの着用だけでは感染リスクが高まってしまうため、マスクの着用は順守せねばなりません。「透明なマスク」が開発されたらよいのにと本気で考えてしまいます。

毎週火曜のテレビ放送による朝会で毎回、「命を守る」という言葉を全校の子どもたちに発信し続けてきました。自分自身の命、家族や友達などの自分の周りにおける大切な人たちの命を守るための具体的な行動として、「手を洗おう・マスクをしよう・換気をしよう・距離をとろう・体調を整えよう…」と呼びかけてきました。子どもたちの頑張りや教職員の指導、そして皆様のご支援のおかげで、「新しい生活様式」が「新しい生活習慣」へ変容しつつあると感じています。

さて、近未来の教育のかたちとして、災害や感染症の発生等による学校の臨時休業等の緊急事態においてもICTの活用により全ての児童生徒の学びを保障できる環境の実現に向けた「GIGAスクール構想（Global and Innovation Gateway for All）」に対する国からの補正予算が示されました。それに伴い横浜市では、「第3期横浜市教育振興基本計画」に掲げた情報活用能力や、新たな価値を創造する力の育成を推進するため、令和2年度中に児童生徒・教員に「1人1台端末」を整備するとともに、年内を目途に1人1アカウントを配付します。技術革新を柔軟に取り入れ、教育のあり方を日々アップデートし続け、新時代に即した情報活用能力の育成や創造性を育む学びを実践するとともに、データの活用により個別の学習達成度や心身の状況を把握し、児童一人ひとりに寄り添った教育を推進します。

明日8月1日から16日まで2週間余りの夏季休業に入ります。今年度は、昨年度末からの一斉臨時休業の影響で不足している授業時数を確保し学習機会を保障していくために、例年の夏休みのほぼ半分の日数となっており、しかも感染防止のための「3密」を防ぐ様々な制約の中で子どもたちは過ごすこととなります。普段できないことを思い切り体験できる本来の夏休みとは違い、開放感も少ないかもしれません。しかしながら、今だからこそ取り組めることがあるかもしれません。柔軟な発想で工夫することにより、充実した夏休みとなることを願っています。

また、これまでに経験のない8月中旬（17日）からの登校開始時は相当な暑さが予想されます。子どもたちの健康・安全を第一に考え、様子をよく見ながら、安心して学校生活を送れるように配慮してまいりますので、ご家庭での健康管理等よろしくお願いいたします。